

ラテン・アメリカ政経学会 2021 年度会員総会資料

2021 年 11 月 14 日 (日)

オンライン開催

※下に掲げる議題および資料をご覧の上、次のリンクから賛成・承認または委任のご意思、もしあれば質問等をご記入ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSex9kzhwi6OPrSfqZ7xP6EvT5mdAA3z41Zl4pv8ztUAm-bu_g/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0&fbzx=-4985895377741483692

議事に先立ち、2021 年度研究奨励賞表彰式を挙行政いたします。

議事次第

審議事項

1. 2020 年度活動報告 (理事長) (資料 1)
2. 2020 年度会計報告 (幡谷理事、藤井監事) (資料 2)
3. 2021 年度事業計画 (理事長) (資料 3)
4. 2021 年度予算 (幡谷理事) (資料 4)
5. 『ラテン・アメリカ論集』掲載論文の著作権等について (清水理事) (資料 5)
6. その他

報告事項

1. 『ラテン・アメリカ論集』第 55 号の発行について (舩方理事) (資料 6)
2. 『ラテン・アメリカ論集』J-STAGE 掲載について (清水理事) (資料 7)
3. 会員の入退会について (理事長) (資料 8)
4. 2022 年度全国大会開催校 (理事長)
5. その他

資料 1

2020 年度活動報告

2020 年度に以下の事業を行った。

- (1) 11 月 12 日（土）～13 日（日）に名古屋大学を主催校に第 57 回全国大会をオンライン開催した。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 54 号を発行した。
- (3) 研究奨励賞については、今年度は応募がなかったので該当なしとなった。
- (4) 地方部会を補完するものとして「オンライン・ラウンドテーブル」という枠組みを設定し、第 1 回を 8 月 21 日に、第 2 回を 2021 年 2 月 20 日に開催した。
- (5) 地域研究会連絡協議会および地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流した。
- (6) 学会ウェブサイトを更新して社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供した。

※北京外国語大学で 4 月 27 日に開催予定だったラテンアメリカ研究東アジアネットワーク（East Asian Network of Latin American Studies: EANLAS）の合同研究会は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止となった。

ラテン・アメリカ政経学会
2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）会計報告
（2021年3月31日現在）

収入の部			支出の部	
前期繰越金	4,534,431	A		
			2019年度全国大会関係費	199,177
会員会費収入(*1)	686,000		2019年度全国大会招聘費	143,153
（個人会員）	686,000		2020年度全国大会開催関係費	53,581
（維持会員）	0		印刷費(*2)	991,243
雑収入	5		消耗品費	3,232
（預金利息）	5		通信費(*3)	113,884
			事務局経費	82,460
収入合計	686,005		支出合計	1,586,730
差引残高（収入－支出）	(900,725)	B		
			次期繰り越し金（A+B）	3,633,706

会計監査報告

上記の2020年度会計報告は、領収書ほかの証拠書類と照合したところ、適正に処理されていると認めます。

2021年 10月 18日

監事 飯塚倫子 

監事 藤井嘉祥 

資料 3

2021 年度事業計画（案）

2021 年度に以下の事業を行う。

- (1) 11 月 13 日（土）～14 日（日）に上智大学を主催校に第 58 回全国大会をオンライン開催する。
- (2) 『ラテン・アメリカ論集』第 55 号を発行する。
- (3) 地方部会を開催する。本日現在で開催が決定しているのは、関東部会（12 月 11 日（土）開催予定）である。
- (4) 地域研究会連絡協議会および地域研究コンソーシアムの加盟学会として関係学会と交流する。
- (5) 研究奨励賞の選考委員会を設置して選考を行い、受賞者を決定する。
- (6) 学会ウェブサイトを通じて社会に情報を発信するとともに、メーリングリストを通じた会員向け情報提供のサービスを提供する。ウェブサイトの英語版作成準備を進める。
- (7) 国際学術交流を実施する。
 - (i) ラテンアメリカから研究者を招聘する会員への補助事業の実施。
 - (ii) ラテンアメリカ研究東アジアネットワーク（EANLAS）への参加。これに付随して EANLAS-LASA 共催の LASA/Asia2022 の運営に協力する。
- (8) その他、本学会の目的に沿う事業を実施する。

資料 4

ラテン・アメリカ政経学会
2021 年度 (2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日) 予算 (案)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	3,633,706	A	
会員会費収入	920,000	2021 年全国大会開催関係費 (*1)	150,000
(個人会員)	(920,000)	印刷費・編集費 (*2)	500,000
(維持会員)	(0)	消耗品費	10,000
雑収入	10	通信費 (*3)	120,000
(預金利息)	(10)	事務局経費 (*4)	200,000
		(論集査読謝礼)	(5,000)
		(全国大会講演謝礼)	(55,000)
2021 年度収入合計	920,010	2020 年度支出合計	980,000
差し引き残額 (収入－支出)	▼59,990	B	
		次期繰越金 (A+B)	3,573,716

*1 : Zoom Webinar 委託費 12 万強 (見積もり) +アルバイト費など。

*2 : 論集第 55 号、および大会基調講演などの編集作業費を計上。

*3 : 論集発送費、大会関連連絡郵送費、会費請求用振替用紙郵送費および入金通知、手数料等。

*4 : 招聘講師、Diego Sanchez-Ancochea 教授への謝金と外国送金料。

 レンタルサーバーの保守・管理費、WebSite の欧文作成費等。

資料5

『ラテン・アメリカ論集』掲載論文の著作権等について

提案1 著作権（財産権）の規定について

これまで、学会誌『ラテン・アメリカ論集』に掲載された論文の著作権（財産権）については、学会に帰属するという理解のもとについて運営を行ってきました。今年度から学会誌を電子ジャーナルのプラットフォームである J-STAGE に掲載したのを機に、投稿規程において著作権について定めることを提案します。

多くの学会が掲載論文の著作権の取り扱いを投稿規程で定めています。本学会の投稿規程の改正については特に定めがないことから、総会でこの提案が承認された場合には、理事会において投稿規程に以下の文言を追加したいと考えています。

<変更案>

機関誌『ラテン・アメリカ論集』「投稿規程」への追記（3.のあとに新たに4.を追加）

4. 「論集」に掲載された論文などの著作権は本学会に帰属する。今後掲載される論文には、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 4.0 の「CC BY-NC-ND」（氏名、作品タイトルなど原作者のクレジットを表示し、非営利目的で、元の作品を改変しないことを主な条件に、作品を自由に再配布できる）を表示して、学術誌の電子プラットフォームである J-STAGE に掲載する。

提案2 過去の論文等の J-STAGE への掲載について

過去の号に掲載された論文等については、既にウェブサイトで公開していることから、J-STAGE でもそのまま公開する方針です。ただし J-STAGE では、いったん公開すると基本的には取り下げることができません。つきましては、ご自身が書かれた過去の号の論文等について J-STAGE での公開を希望されない場合には、2022 年 2 月末までに事務局までお申し出ください。理事会で取り扱いについて協議・決定します。この期日までに明示的なお申し出がなければ、J-STAGE で公開することといたしたく存じます。

以上

資料6

『ラテン・アメリカ論集』編集委員報告

『ラテン・アメリカ論集』第55号の編集作業の進行状況について報告いたします。55号の内容は、学会展望1本と書評5本です。

学会展望は、「ラテン・アメリカ研究のグローバル化：東アジアの視点から」という題目で、2020年11月14日に開催された第57回ラテン・アメリカ政経学会全国大会特別企画セッションの報告を取りまとめたものです。

依頼論文は昨年の学会でブラジリア大学の Rodrigo Campos 先生とオズワルド・クルス財団の Celia Almeida 先生が報告されたブラジルにおける COVID-19 の感染拡大の状況に関する共著論文を掲載する予定でした。しかし諸事情が重なり、Rodrigo 先生より寄稿を辞退する旨の連絡を受けました。

研究論文については、投稿の申請が1件ありましたが、締め切りまでに投稿されませんでした。書評に関しては、2021年5月頃までに出版された会員が著者または編者の本から5冊を取り上げました。その他にも研究奨励賞と学会消息を掲載しました。詳しくは次ページをご覧ください。

印刷は昨年と同じプリントボーイにお願いし、冊子200部を学会事務局へ（12月予定）送付するよう依頼してあります。なお、執筆希望者に送付していた抜き刷りは本号より廃止いたしました。

最後に、編集にご協力下さった会員の皆様、特に書評の執筆をお引き受け下さった方々に、厚く御礼申し上げます。

『ラテン・アメリカ論集』55号編集幹事
舛方周一郎

資料6

『ラテン・アメリカ論集』 2021、No.55 合計92ページ（表紙、目次、奥付けを除く）

<学会展望>

特集 ラテン・アメリカ研究のグローバル化：東アジアの視点から

<書評>

畑恵子・浦部浩之 編

『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』

堀坂浩太郎

中井愛子 著

『国際法の誕生：ヨーロッパ国際法からの転換』

山岡加奈子

坂口安紀 著

『ベネズエラ——溶解する民主主義、破綻する経済』

村上勇介

住田育住・牛島万 編

『混迷するベネズエラ——21世紀ラテンアメリカの政治・社会状況』

田中高

清水達也 編

『次世代の食料供給の担い手——ラテンアメリカの農業経営体』

小池洋一

2021年度研究奨励賞

<学会消息>

編集後記

資料7

『ラテン・アメリカ論集』J-STAGE への掲載

2021年9月より、当学会の学会誌『ラテン・アメリカ論集』をJ-STAGEへ掲載しています。J-STAGEは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルのプラットフォームです。自然科学の学会誌の掲載が多いですが、近年は社会科学や地域研究の学会誌の掲載も増えています。

J-STAGE上の『ラテン・アメリカ論集』へのリンク

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/laronshu/-char/ja>

今後は、最新号の発行と共にJ-STAGEへ掲載します。過去の号については、現在は学会ウェブサイトに掲載していますが、順次J-STAGEへ移行します。現在は52巻（2018年度発行）まで掲載しています。

J-STAGEへの掲載により、各記事にDOI（Digital Object Identifier）が付与されます。DOIは各記事固有のインターネットのアドレスで変更されることがありません。引用文献にDOIを入れることで、いわゆるリンク切れがなくなります。また、J-STAGEを利用することで、学会ウェブサイトへ学会誌を掲載する負担がなくなります。

以上

ウェブサイト管理担当 清水達也

資料8「会員の動向」は当日画面共有に留めさせていただきます。